

## 「肺がん」や「気胸」の治療

呼吸器外科 医長 水谷 栄基



呼吸器外科では、主に「肺がん」と「気胸」の手術を行っています。

- 「肺がん」ができてしまった方には、
- ①出来るだけ肺がんを治したい。→手術
  - ②治せない状況であれば、出来るだけ長い間元気でいて欲しい。  
→ 抗がん剤・放射線(+緩和治療)
  - ③長い間元気でいることが難しければ、痛みや苦しさを減らしたい。  
→ 緩和治療

胸腔鏡の進歩により、手術創がかなり小さく出来る事が多くなりました。現在当院で行っている完全胸腔鏡下手術では、ロボット手術のおよそ半分～3分の2程度の手術創の長さになっています。手術を受けられた半分以上の方は肺がんが治ります。手術後は外来へ5年間以上通院し、再発がないか一緒に確認させて頂きます。手術の時点で切除範囲外に微小に転移している方は再発してしまいます。再発した場合も以前と比べて抗がん剤、分子標的治療薬や免疫抗体療法が発展したことにより、元気で過ごせる期間が伸びています。もしも再発した場合にもその後どれだけ元気に過ごせるか、辛い思いを出来る限り減らせられるかを考えて治療してまいりました。

「肺がん」が出来ないためには、喫煙しないことが重要です！

喫煙しない方が増えた最近では、喫煙と関連の少ない肺がんの「腺がん」が割合的に増えてきました。「腺がん」は予防しきれなため、早期発見が重要になります。1～2年毎に胸部CT検査を人間ドック等で受けておくと、早期に発見されることが多いと思います。現在でもレントゲン検査や症状等によって肺がんが発見された方は、体の中で広がってしまっていることが少なくありません。

「気胸」は肺に穴があいて、空気がもれてしまう病気です。20歳前後の長身細身の男性に発症する事が多い原発性気胸(自然気胸)は、ある日突然胸が痛くなつて起ります。大学受験の数日前に発症して脱気チューブを挿入したまま受験したり(合格されました)、海外で発症して飛行機に乗れずに帰国できなくなつたりと、さまざまな多くのエピソードがあります。基本的には良性の病気であり、出来るだけ快適に過ごせるお手伝いが出来ればと考えています。しかし、良性の病気といつても肺が極端に虚脱した場合や、出血を伴つた場合には致命的になることもあります。我慢や油断は禁物です。

喫煙により肺が壊れる肺気腫等が原因の続発性気胸もあります。肺の機能が悪い方の片肺が虚脱するため、強い息苦しさで救急搬送になることも少なくありません。自然治癒で穴が塞がらない事も多く、胸腔鏡手術で肺のう胞を処理したり、胸腔内に薬剤を注入したりして治します。

当科を受診して良かったと、皆様に言って頂けるように努めてまいります。

完全胸腔鏡下手術(ポート孔3カ所)

